

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°21 ドメーヌ・ディディエ・モンショヴェ

生産地方：ブルゴーニュ

新着ワイン4種類♪

AC クレマン・ド・ブルゴーニュ ブラン・ド・ブラン 2014 (泡)

2012年、2013年は雹や病気の影響で収量が摂れず、2011年以来3ヴィンテージぶりのリリース！2014年はボーヌ全域で大規模な雹の被害があった中で、クレマンの畑は奇跡的に難を逃れることができた！ディディエ曰く、9月が良い天候に恵まれたおかげで、ミネラル豊富なクレマンが出来上がったとのこと！

AC オート・コート・ド・ボーヌ 2014 (白)

2014年はビオディナミの効果が最も顕著に表れた年で、彼のオート・コートの畑は厳しい天候だったにもかかわらずミルデューの被害がほとんどなかったようだ！最終的にクレマン同様に雹の被害を逃れ50hL/haと徐々に適正収量を確保できている！ボリュームがあるが、柱となるミネラルがしっかりワインを引き締めている！

AC オート・コート・ド・ボーヌ 2014 (赤)

2014年は、一部ポマール近くのオート・コートの畑が雹の被害に遭ったが、それ以外の畑はビオディナミの効果もあり全く問題がなかった。味わいた的には、果実味がピュアでみずみずしく、しょっぱいミネラル余韻を感じる！ディディエ曰く、今はタンニンの収斂味が少しタイトなので、少し寝かせてから飲むのがベストとのこと！

AC ポマール 2013 (赤)

2013年は雨が多く、雹と病気の影響で収穫量は20hL/haと例年の60%減！例年に比べ日照量は少なく、ブドウが熟すにはとても厳しいミレジムだったが、幸いポマールは房がすでに少なかったおかげで、最終的完熟レベルにまで持っていくことができた！ワインは、果実味、酸、タンニン全ての要素がコンパクトにまとまっている！特に、長期熟成に耐えそうな酸とタンニンがあり、熟成により真価を発揮させそうな予感がある！ディディエ曰く、あと軽く10年は熟成すること！

ミレジム情報 当主「ディディエ・モンショヴェ」のコメント

2013年は、春のスタートから雨が多く、気温も冬並みに寒い日が続いたため、ブドウの発芽が大幅に遅れた。6月になっても気温が上がらなかったため、ブドウの開花も3週間から1ヶ月ほど遅れ、特に同じ区画内で開花期間に大きな差が出るなど、ブドウの成長は不安定極まりなかった。7月24日にポマール、ヴォルネー一帯に親指大の雹が降り、ポマールを含むいくつかの畑に大きな被害があった…。その後は、夏らしい天候が8月の終わりまで続き、ブドウも遅れを取り戻すかのように徐々に成長スピードを上げていった。9月20日に最後の摘房をすませ、万全の態勢で収穫に備えたのだが、9月終わりからまた不安定な天候が続き、健全な状態を保っていたブドウも、雨や湿気でみるみる腐敗が広がり、結局ブドウの4割近くは捨てる羽目になった…。

2014年は、収穫直前の天候に助けられたミラクルな年。春のスタートは、3月20日に軽く霜の被害に遭う悪い出だしだった。4月に入り気温は通常通り上昇し、ブドウの成長はアクセル全開。そのまま6月下旬まで雨も降らず、病気もほとんどない安定した天候が続いた。開花はすべて順調に終わり、ここまでは霜の

被害の分を差し引いてもある程度の収量が期待できた。だが、6月28日、3年連続となる雹がポーヌー一帯を激しく襲った。約15分間でポーヌの畑が80%とほぼ壊滅。ポマールは40%の被害に遭った。7月は夏らしく暑い日差しに恵まれたが、8月に入ると一転、肌寒く雨がちな天候が月末まで続いた。ブドウの成長は寒さのためストップし、このままブドウが熟さず収穫を迎えるのでは！？と不安だった。だが、9月に入ると、まるで8月の夏が遅れて来たように太陽が戻り、ブドウは成熟にむけて加速し、最終的には適度に完熟したブドウを収穫することができた。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

2016年のブルゴーニュは、残念ながら2012年を上回る厳しい年となりそうで、モンショヴェの畑も例外ではなかった。

今年は、暖冬でブドウの発芽が例年以上に早く、そのいつもより早い発芽があだとなり、4月27日の遅霜で12.5ヘクタール全ての畑が100%被害に遭った…。前日まで元気だった芽が、朝のたった数時間の氷点下の気温によって、全て凍傷にかかり真っ黒に濁き落ちてしまったのだ。ディディエは言う、「もうかれこれ30年以上ワインをつくり続けているが、こんな最悪な天災に出くわしたことがない！」と。ブルゴーニュにおいての直近の霜の被害は1981年にあり、昔を知るヴィニョロンは、それでも半分くらい被害でその時は収まったのだそうだ。2000年に入ってから、温暖化現象など気候の変動を敏感に感じ取っていたディディエは、ここ数年間の異常気象を見て、地球規模で気候の基準が変わってきていると確信している。

その後6月末にディディエに電話をして畑の近況を聞いてみたが、「霜の被害があって以降、今度は毎日雨が降り止まない…。2つ目の芽が約1か月遅れで出始めているが、もちろんほとんどブドウが実を付けていない。そのやっとなり始め芽も今度はミルデューのリスクにさらされている…」と、依然状況は思わしくないうらだ…。

果たして今年のブルゴーニュ、そしてモンショヴェは一体どのような年になるのだろうか…？好転を祈り、じっと見守って行きたい。

(2016.3.21.ドメーヌ突撃訪問&6.27.突撃生電話より)